

教員名	篠塚 英子 (SHINOTSUKA Eiko)
所 属	文教育学部人文科学科比較歴史学講座
学 位	商学博士 (慶応義塾大学) 1990
職 名	教授
URL/E-mail	eshino@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

労働経済学 / ジェンダー研究 / 金融政策 / 外国人労働 / 中国・韓国パネル調査

◆主要業績

総数 (9) 件

- ・『家計内配分とジェンダー統計の研究』報告書
お茶の水女子大学「家計内配分とジェンダー統計の研究会」研究代表者 篠塚英子 pp.1-291 2006年3月
- ・『パネル調査からみたジェンダー平等政策』
お茶の水女子大学 21世紀COEプログラム：
お茶の水女子大学 F-GENS ジャーナル No.5 pp.86-92 2006年3月
- ・「配偶関係別からみた現在の北京就業率」
お茶の水女子大学 F-GENS Publication Sries No.5
『家族・仕事・家計に関する国際比較研究中国パネル調査第1年度報告書』 pp.50-65 2005年11月

◆研究内容

17年度は大きく3つの研究を実施した。第1はCOEジェンダー研究のフロンティアの2年目にあたる研究、第2に科学研究費の最終報告書作成、第3に、金融政策にかんするものである。第1のものはCOE-FGENSの中国、韓国パネル報告書を分担執筆して報告書を完成させた(お茶の水女子大学 F-GENS Publication Sries No.5『家族・仕事・家計に関する国際比較研究韓国パネル調査第1年度報告書、3章「現在の就業」およびお茶の水女子大学 F-GENS Publication Sries No.5『家族・仕事・家計に関する国際比較研究中国パネル調査第1年度報告書』、4章「配偶関係別からみた現在の北京就業者』)。第2は平成15~17年度科学研究費補助金基盤研究(B)[2]課題番号15330039「家計内配分とジェンダー統計の研究」[研究者代表 篠塚英子]の研究報告書[全291ページ]を完成させた。報告書では2本の論文を担当した。第3の金融政策に関するものを学会で報告をした(日本金融学会春季大会 早稲田大学「金融政策は分配問題に責任はないのか?」)。

◆教育内容

17年度の教育実施上の特色をいくつか列挙する。第1は極力、学生の質問に答える努力をし、メールで質問を受け付け、回答は質問者の氏名を匿名にして全員に紙面で回答することで双方向授業を試みた(グローバル化と経済、経済学通論)。第2に、これは毎年実施しているが日本銀行の日銀ツアーを企画した。事前に学生から希望をとり30名の学生が参加することができた。第3に、個人的なコネクションで外部講師を招き、ビジネス世界の活きた情報を学生に提供できた。学生も積極的に講師との議論を体験した(コアクラスター「企業・起業論」)。第4に、書籍によるテキストと映像のよる情報を適宜おりまぜて学生に刺激を与える工夫をした。最後に試験の結果について、テスト、レポート、出席のウエイトを明記して学生に成績評価を戻すことをやった。

◆受験生等へのメッセージ

本学は法学や経済学、政治学などの社会科学系の学部がありませんが、文教育学部と生活科学部にはこれらを専門とする教員がかなりおります。そして新たな試みで学部を超えて副専攻という選択も出来ます。グローバル文化学環はこうした新しい試みで冷え性 16 年度から設立しました。是非ホームページをのぞいてみてください。